

どこまで「エンジニア」になっているかわかりませんが、紹介により執筆することになりました。

技術士であった亡き父や研究者、技術士の兄を持つエンジニア家の三男ですが、この業界に入るまでは、技術など考えたこともなく、学生時代も遊んでばかりでした。そんな何も考えていなかった自分ですが、入社当時の上司や息子のように自分を可愛がってくれた名誉教授の指導などにより、自分なりに「エンジニア」としての方向性を示せたと考えています。

仕事をこなしていくうちに、「エンジニア」になるためにはどうすればいいのか、目標と行動項目を設定しました。20代は、とにかく仕事を覚える時期と考え、下請け会社でとにかく自分で手を動かしました。30代では、資格の重要性も強く感じ、資格を取得しながら新たな仕事にも取り組みました。現在40代ですが、色々な人達の意見や考え方を参考に、技術の幅を広げようと考えています。幅を広げるために、土木分野だけではなく他分野の勉強も行っています。今までは、OJT、OFF-JT、SDなどが周りの協力もあって、バランスよく実行できたと考えています。

よく考えると本当に多くの先輩や仲間など“人”に恵まれていると感じます。上司や教授以外にも他の社員にも関わらずいつも厳しく指導してくれる大先輩、ボランティアで技術士の指導や委員会などいつも仕切ってくれている多くの先輩や仲間にもいつも教えられています。

これからも、多くの先輩や仲間と協働しながら、いろんな人達との技術の“橋渡し”ができる本物の「エンジニア」になれるように、さらに技術を向上させたいと思います。

和田 隆宏 (わだ たかひろ)

●建設部門
(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

北海道土木設計株式会社
t-wada@do-doboku.co.jp



→次号は、戸塚智勝さん(建設部門)

私は釧路で生まれ、学生時代を新潟県で過ごしたのち、釧路市に職員として採用されました。市役所では化学系の技術職として上下水道や環境関係の業務に携わり、現在は水道水の水質を管理する業務に就いています。

技術士という資格を意識するようになったのは、後輩の化学職が配属されるようになった頃です。私にとって初めての後輩でうれしいことなのですが、指導・教育などをあまり経験していません。そこで「口で言うより努力する姿を見せる」という、私なりの課外指導(?)を始めることにしました。技術士という資格は日常の業務において意識することは少ないのですが、今まで得た経験という財産だけでは物足りない気持ちも持っていました。資格試験は小学校6年生で挑戦したハムの免許以来です。記憶力の低下に悩まされながらも合格することができたのは、支えていただいた皆さんのおかげと感謝しております。後輩たちもそれぞれ目標を掲げて技術力の向上に努めており、技術士を目指す職員には微力ながらサポートしたいと思っています。

この資格取得を契機に、技術者として交流の輪が広がったと実感しています。取得した部門や専門は違えども、みなさんの心に秘めた思いや行動力に接し、あらためて成長する機会を得たことに感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。

わが街も人口減少や公共施設の維持・更新に直面しており、財政状況はますます厳しくなっています。効率的な事業運営は勿論ですが、安全や安心への配慮も求められており、しっかり対応していかなければならないと肝に銘じているところです。

中島 慶介 (なかじま けいすけ)

●上下水道部門(上水道、水道環境)
衛生工学部門(水質管理)
総合技術監理部門

勤務先

釧路市 上下水道部水質管理課



→次号は、高橋秀治さん(農業部門)